

# e-dream-s 通信

No. 121 発行：2011年6月12日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

e-dream-s 通信6月号をお届けします。お楽しみください。

## 目 次

1. ミッションをカタチに	中川 房代	P. 2
2. アメリカで Perfume	辻 荘一	p. 4
3. 暮れなずむ西湖の畔、杭州にて	井川 好二	p. 6
4. 心地よい風と蓮の香りと優しい笑顔	塚本 美紀	p. 12
5. チャリティコンサート	山田 昌子	p. 13



カンボジア・アンコール遺跡群 プリア・カンの四面仏

© e-dream-s

プリア・カンの東楼門。門の上部は四面仏。  
微笑みをたたえた観世音菩薩が四方を見つめている。(2001.1 Ryoji 氏撮影)

# ミッションをカタチに

中川 房代

5月の連休にカンボジアに行き、e-dream-s と Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の共同プロジェクトとして、学校(生徒)への英語の教科書を支援するプロジェクトを行うことが決まった。カンボジアの新学期は10月から、その新学期に間に合うように、現在、プロジェクトの具体化を進めていこうとしているところである。

カンボジアでは、国の検定教科書は1種類だけで、それをカンボジア全域で使っている。「英語」の教科は中学校から始まり、使用する教科書は7年生(中学校1年生)が「BOOK 1」、8年生が「BOOK 2」で、私たちが支援をする上記の学校は中・高併設校なので、7年生から12年生までの6学年約1,500名が通っている。オリジナルのカラー印刷の教科書もあるが、それを書店(印刷所?)が簡易印刷(コピー)したコピー版を販売しており、ほとんどの生徒はそのコピー版を購入して使っている。従って、今回のプロジェクトでは、教科書(学年)毎の必要数を書店に注文して、その冊数のコピー版教科書を印刷してもらおうということになる。注文印刷なので、裏表紙にe-dream-sの名前や支援をくださった方々の名前を印刷することも可能だと聞いている。なかなか良いアイデアだと思う。

学校では10月初日に新学年の始業式が行われ、そこには国や州、地域などの役人や教育委員会などの関係者が出席することになっているそうだ。そこに、e-dream-sの代表も出席して、支援プロジェクトによる教科書贈呈式(仮称)を執り行おうと計画している。

長年のe-dream-sの「ミッション」が1つのカタチになろうとしている。2000年にe-dream-sの設立した「目的」・「ミッション」は、私たちが国際社会に貢献することで、それを実現するための組織としてe-dream-sを設立したのである。ミッションを体現する1つのプロジェクトの実現が近くなってきた。是非、皆の力を結集して成功させていきましょう。

そのために、昨年度の総括と今後の方針を話し合う理事会を7月2日~3日に、会員総会を8月28日に開催することが決定した。しっかりと準備をして、実りある会にしていきたい。

## お知らせ

### <第36回理事会>

- ・ 日時：7月2日（土）～3日（日）
- ・ 会場：静岡県浜松市周辺を予定
- ・ 案件：(1) 2010年度事業総括と収支決算報告  
(2) 2011年度事業方針と収支予算  
(3) 次期役員選任の件  
(4) その他

### <第12回定時会員総会>

- ・ 日時：8月28日（日） 15：00～16：30を予定
- ・ 会場：大阪市立城北市民学習センター  
(大阪市旭区高殿6丁目14番6号)

# アメリカで

辻 莊一

英語教師歴約30年で、日頃英語教育について結構エラそうに語っているくせに、留学経験はない私である。そんな私が去る3月19日（金）から4月2日（土）までカリフォルニアで、ホームステイということになった。心配していた食べ物のことホストのイタリア系の Jennifer、中国系の Jack Hsiao 夫妻のお陰で、全くの杞憂に終わったどころか、手作りパスタ、ワインテイastingと至れり尽くせりの2週間であった。

短期間のしかもお客さん扱いの滞在中で、アメリカやカリフォルニアについてあれこれ言うのは気がひけるのだが、今その2週間を振り返ってみると、日本から地理的にも文化的にも遠いはずのアメリカを訪れたにもかかわらず、強く印象に残っているのは、異文化の中に飛び込んだという感覚の薄さである。もちろん、驚きや意外性がなかったわけではないし、海外で長期間同じところに滞在したことがない私にとって、非常に貴重な体験ではあったのだが、印象に残っているのはそのシームレスな感覚である。

ある程度英語で意思疎通ができる、ということで「異文化感」が薄まるということもあるが、例えほとんど英語ができなくても、現地の人々のライフスタイルや価値観について、違っているけれども大きな差はないという印象を抱いたのではないかと感じられるのである。

Jennifer も Jack もワインが好きだったり、Jennifer が70年代のアメリカ音楽が好きで、私の iPhone から流れる Perfume の曲が気に入ったりする、個人的嗜好の共通性もあるし、Jennifer も私も公立高校の教師だということも大きかったように思う。アメリカと日本では社会が教師に期待するところが大きく違っている部分もあるのだが、一方互いに共感することも多い。例えば、数学教師である Jennifer が試験中に電卓を使っている女子生徒を見つけ、注意し、親に連絡したところ、親から「他の生徒の前で叱ったのは問題」というクレームが来て困ったというエピソードには、私も強く共感するし、また私が生徒指導部長として多数の生徒を飲酒や喫煙で停学処分にする際に起こった同僚たちとの軋轢の話は、身を乗り出して聞いてくれたりするるのである。

これは、日本がアメリカの価値観を長年にわたり、受け入れてきているという日米関係に特有なことかもしれないし、あるいはもっとグローバルに、ある程度の経済レベルにある民主主義国では、都会生活者の感覚や価値観が似てくるといえるかもしれない。

そう考えると、同じアジアの国であるし、訪れるたびに現地の人々の振る舞いに強く好感を抱くにも関わらず、アメリカよりカンボジアの方に強く異文化の感覚を抱くのも、納得がいく気がするのである。

# 暮れなずむ西湖の畔、杭州にて

井川 好二



太陽がかあつと照って35度近くなつたかと思うと、稲妻が走って豪雨になったり、台風のような風に傘が吹き飛んだり、一日のうちに気象がダイナミックに変化する。去年もそう思ったが、ここ杭州<sup>1</sup>の印象は、ワイルドな熱帯。それも、この12～13世紀に南宋<sup>2</sup>の都であった杭州の、もともとの特徴と云うより、最近の異常気象の影響であるに違いない。

梅雨である。大阪もソウルも台北も杭州も、東アジア一帯が梅雨。その「梅雨」と云う日本語は、中国

<sup>1</sup>こうしゅう【杭州】カウシウ (Hangzhou) 中国浙江省の省都。杭州湾および銭塘せんとう江河口に間近く古来外国貿易で栄え、大運河の南端で、水陸交通の要地。南宋の首都 (臨安)。西湖に臨む景勝地。伝統的な絹・手工芸品のほか、各種工業が発達。マルコ=ポーロはキンザイ (行在) の名で西洋に紹介。人口 245 万 1 千 (2000)。【広辞苑第六版】

<sup>2</sup>【南宋】カンソウ 王朝名。趙匡胤チャウキョウイン (太祖) によってたてられた宋朝が、首都 (今の開封) を金朝

語の「梅雨（メイユ）」から来ていると、今回の旅で現地の人に教えられた。ちょうど梅の実が熟す今頃降る雨を「梅雨」と書いて「ツユ」と呼ぶのである。台湾でも韓国でも、似たような表現をするらしく、変なところで国際性を感じてしまう。とはいえ、現代の杭州の梅雨は、ワイルドである。

浙江省杭州市のことを日本では、広東省の広州市と区別するために、「杭のこうしゅう」と云ったりするが、英語読みの Hangzhou に習った方が、すっきりする。杭州は大阪から直行の全日空機で、約 2 時間半。日本との時差は 1 時間。人口は 6 0 0 万人にせまる大都会である。

短いビジネス・トリップではあったが、仕事と豪雨の合間を縫って、現地にある提携大学の、日本語が堪能な W 助教授が、案内をして下さった。杭州は今回で 3 度目だが、新たな杭州のイメージが浮かび上がってきた。あるいは、中国の姿がよりはっきり見えてきた。

訪れたのは、「大運河」と呼ばれる「京杭大運河」。隋<sup>3</sup>の時代に建設が始まった文字通りの「大運河」である。都の北京と杭州を結び、全長 2 5 0 0 キロ。その大運河の終着駅が、杭州市内なのである。

W 先生の案内で、大運河を水上バスで移動した。杭州市内中心部を巡る快適な 3 0 分のクルーズであった。

---

国におとされ、江南に移って臨安に都を置いてから、宋が滅びるまでの時期。1127-1279【漢字源】  
<sup>3</sup>ずい【隋】中国の王朝の一つ。北周の武将の楊堅（文帝）が静帝の禅譲を受けて建てた。都は大興（長安）。陳を併せて南北を統一（589年）、中央集権的帝国を樹立したが、2世煬帝ようだいの末から乱れ、3世で滅んだ。律令・科挙などその諸制度は唐制の基礎となり、また、日本と国交を結んだ。（581～619）  
→遣隋使【広辞苑第六版】



京杭大運河<sup>4</sup>

Wikipedia<sup>5</sup>によると、京杭大運河とは、

京杭大運河（けいこうだいうんが）は、中国の北京から杭州までを結ぶ、総延長 2500 キロメートルに及ぶ大運河である。途中で、黄河と揚子江を横断している。戦国時代より部分的には開削されてきたが、隋の文帝と煬帝がこれを整備した。

1400年前の遺構が今も現存し、市民の憩いの場となっているところが、いかにも中国らしい。

司馬遼太郎は「街道をゆく<sup>6</sup>」の中で、「杭州を語るには、宋を語らねばならない」（p. 105）と云う。

<sup>4</sup>[http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Modern\\_Course\\_of\\_Grand\\_Canal\\_of\\_China.png](http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Modern_Course_of_Grand_Canal_of_China.png)

<sup>5</sup> <http://ja.wikipedia.org/wiki/京杭大運河>

<sup>6</sup> 司馬遼太郎(1987)「街道をゆく 19 中国・江南のみち」東京：朝日新聞社

マルコ・ポーロ<sup>7</sup>が「キンサイ」と呼んだ杭州（当時の臨安）の町が、南宋の都でありつづけたことは、百五十年にわずか1年欠ける。(p.114)



マルコ・ポーロ<sup>8</sup>

そして、マルコ・ポーロの書いた「東方見聞録<sup>9</sup>」のおかげで、日本の存在が黄金の国「ジパング」として、西欧社会に知られるところとなった。

そのマルコ・ポーロの名前を冠した「マルコ・ポーロ・ホテル」は、私の泊まっている杭州友好飯店の向かいにある。

「毎週土日は、『少年区』にある『養成班』に通わせてます。土曜日は、ダンスとピアノ。日曜日は、習字と絵画とそろばん。合計5つで、毎年1万円くらいかかります」

W先生が娘さんのことを説明してくれる。むろん一人っ子であるお嬢さんは、この秋から小学校へ上がるそう。 「少年区」は、地区にある公立の少年少女センターで、「養成班」とは、要するに塾のようなもので、その費用が年間1万円。日本円にして、12～3万円。旅行会社へ勤めるご主人と共働き

<sup>7</sup> マルコ・ポーロ【Marco Polo】イタリアの商人・旅行家。ヴェネツィアの人。1270年末、再度元へ行く宝石商の父・叔父に伴われて出発、74年フビライに謁して任官、中国各地を見聞、海路インド洋・黒海を経て95年帰国。ジェノヴァとの海戦に敗れて捕らえられ、その獄中で「東方見聞録」を口述し、ヨーロッパ人の東洋観に大きな影響を与えた。(1254～1324)【広辞苑第六版】

<sup>8</sup> [http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Marco\\_Polo\\_-\\_costume\\_tartare.jpg](http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Marco_Polo_-_costume_tartare.jpg)

<sup>9</sup> どうほうけんぶんろく【東方見聞録】(Il Milione イタリア) マルコ=ポーロの作とされる旅行記。1271～95年中央アジア・中国の紀行で、ジパング(日本)に関する記述もあり、ヨーロッパ人の東洋への関心を高めた。【広辞苑第六版】



助教授にとっても、負担は大きいようだ。

「ピアノは、いい先生なので、月謝が高いんですよ。それに、今、家にあるのは、電子ピアノなのですが、ホンモノのピアノを買えと先生にいわれました。タッチが全然違うそうです」

杭州から車で3時間くらいのところにある臨海と云う町に、W先生の実家があるのだそうで、そこからW先生の母親に杭州へ来てもらって、娘の面倒をみてもらっているそうだ。中国ではよくある話らしい。

公務員だった父親も母親もすでに定年退職し、日本式に云えば悠々自適の「年金生活者」。農民や自営業には「年金」がない現代中国では、ゆったりとした暮しをしている人たちということになる。

「お父さんは、臨海に残って、私のお兄さんの子どもの面倒をみています。中国ではあたり前のことです」

もうすぐそこまで来ている中国の高齢化社会の現実が見えてくる。

「今、私の娘、5つも養成班に通わせているのに、私のお母さんは、英語も習わせたらどうかと云います。この間、そのことでちょっとした喧嘩になりましたが、自分の母なので、云いたいことも云えるし、喧嘩もできます。夫の母親だったら、そうはいきません」

夕食は、提携先大学の学長主催で、西湖<sup>10</sup>の畔にある高級レストランにて。西湖は、美しい湖である。雨上がりの柳の緑が新鮮で、暮れなずむ夕暮れ時が、落ち着いていて特に良い。

---

<sup>10</sup>せい - こ【西湖】(Xi Hu) 中国浙江省杭州市の西にある湖。周囲約15キロメートル。沿岸に丘陵をめぐらし、湖中に島・堤があり、付近に岳飛の墓など古跡が多く、西湖十景でも知られる。【広辞苑第六版】



西湖<sup>11</sup>

杭州は、歴史の街。現代中国の大都会でもある。異常気象の影響を色濃く受けながらも、昔と今が混在する街。

それが、現在の中国の姿であれば、これからの中国の方向性も見えてくる、のかもしれない。(Saturday, June 11, 2011)

---

<sup>11</sup> [http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/5/5c/West\\_Lake.JPG](http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/5/5c/West_Lake.JPG)

# 心地よい風と蓮の香りと優しい笑顔

塚本美紀

久しぶりのカンボジアは、何もかもが懐かしい。プノンペンに定宿ヒマワリホテルのコンシェルジュのおじさんは、”Welcome back, Miki san!”などと言って出迎えてくれる。部屋の扉を開けると、勝手知ったる我が家に戻ってきたような気もする。今回で5回目の訪問とはいえ、いつも短い期間にイベントが盛りだくさん旅で、まだまだカンボジアを十分体験しているとは言えない。

今回の訪問では、途中、車をチャーターしてシェムリアップへ1泊2日の旅をした。車とドライバーを手配してくれたのはACEのRith。シェムリアップへは5時間ほどの長旅になるので、快適な車にして欲しいという私たちのリクエストに応え、ランドクルーザーを用意してくれた。しかし、、、

約束の時間にヒマワリホテルに来てくれた車は確かにランクルだが、後部座席の足元に油まみれの工具箱やロープやなんだかよくわからない荷物がたくさんあって、全員が座れない。「人数をちゃんと saying いたのにどうして!」「しかも汚い道具がたくさんあって、私の足が汚れるし、、、」などといろんな考えが頭の中を巡り、私はちょっと不機嫌な顔になってしまった。ドライバーは英語を話さないで、車を手配しているお店の人に電話して、状況を説明し改善をお願いした。最後にドライバーに電話をかわってもらったが、彼に伝わっているのかどうかよくわからない。とりあえず、シェムリアップへ出発する前に、プノンペン市内の女子学生寮を見学する約束の時間が近づいていたので、グューグュー詰めで寮に向かった。心配だったので、「何か問題があったら僕に電話して。」と言ってくれていたRithに電話して状況を説明した。

寮の見学を終えて車に戻ると、後部座席の荷物がきちんと整理され、5人分の座席が用意されていた!油まみれの工具箱もどこにいったのか見当たらない。ニコニコと私たちを迎えてくれるドライバー。私たちが見学している間、彼が車の中を整理してくれたのだ。これでゆっくりシェムリアップへ行ける!女子学生寮を後にした数分後、車を手配したお店の人がバイクで私たちの様子を見に来てくれた。Rithから連絡が来ていたようだ。私たち5人が快適に座っている様子を見て、笑顔で去っていった。さっきまで不機嫌な顔をしていた自分が恥ずかしい。

初めてカンボジアに行った時、CamTESOLの事務局をしていたオーストラリア人男性に「開発途上国のこの国では、すんなりいかないことがたくさんある。でも、カンボジアの人たちはいい人なので、イライラせず、あきらめなければ、たいていのことはうまくいくよ。」と言われたが、まさにその通りだ。同じような経験が何度かある。一件落着し、我に返ってみると、気持ちのよい風が吹いていて、どこからか花の香りがし、周囲の人たちは皆、ニコニコしている。イライラしているのは私だけだ。

これから教科書を寄贈するプロジェクトが本格的に始まる。誠実で心優しいカンボジアの友人たちと一緒にこのプロジェクトを進めていく中で、「イライラせず、あきらめない」姿勢を身につけたいと思う。

# チャリティコンサート

理事 山田昌子

4月に転勤した府立高校で、5月14日夕方、「東日本大震災チャリティコンサート」が開かれた。地域の住民の有志の方々が、一緒に何かやりたいと声をかけて下さったそう。早速、管理職のみならず、PTA、教育講演会、生徒会も動き出し、あっという間に当日を迎えた。私は図書部、視聴覚機器のお手伝いをするため、参加した。

開場1時間半前、私は同僚の先生と、会場の格技場に視聴覚機器をセッティングし始めた。野球部や生徒会関係の生徒たちが、椅子やテーブルを運び、会場を整備し出し、しばらくすると、PTAの方々が会場付近で募金箱を用意、最初にフォークソングを歌い演奏する地域のミュージシャングループ<sup>12</sup>の方々も、マイクやミキサー等を準備、リハーサルをし始めた。格技場は、急に高校生と教員、地域の方々が賑やかになった。初めての地域住民とのチャリティイベント-----客が集まるのだろうか、うまくいくのだろうか、誰もがちょっぴりドキドキしながら、でも成功させるぞ！という意気込みで準備をしていた。そのうち、地域住民の方々が集まって来られた。生徒たちは、客の案内に忙しく動いた。年齢層は様々だが、どちらかという中高年の方が多い。格技場はすぐに一杯になった。地域の新聞社の方々も取材に来られていた。

学校長の挨拶の後、フォークソングの歌とギター演奏でコンサートは始まった。次に、宮城で救援活動をした消防隊員の方々<sup>13</sup>が、現地報告と共に、ギターとサックスの演奏をされた。勤務校の吹奏楽部も演奏を披露した。また、コンサートのみならず、京都大学の教授<sup>14</sup>が地震発生メカニズムを講演され、京都に住む医師<sup>15</sup>が福島に支援に行った時のお話をされた。途中、マイク、プロジェクター、照明、アンプ等で電気を使い過ぎ、ブレイカーが落ちるといったハプニングもあったが、それは電気に頼り過ぎた現代の生活について考える機会となった。会場は熱気に溢れ、予定された2時間を大幅に延長、最後は地域住民の有志代表の方と生徒会の生徒たちが、一緒に募金のお願いをし、コンサートは終わった。明るかった外は、とっくに日が沈み、暗くなっていた。



終了後、たまたま、かつての私の教え子が、コンサートを楽しんでいたりと、新聞記者となって取材にやって来ていて、声をかけてくれた。震災チャリティのお陰でなつかしい再会、思いもかけなかった。

盛り沢山の急な企画だったが、演奏や講演をしてくださった方々はすべてボランティア、そして地域の

<sup>12</sup> 「満月堂」という宇治市で活躍しているフォークソンググループ

<sup>13</sup> 「大津銘曲堂」というジャズグループ。勤務校の卒業生がメンバーとなっている。

<sup>14</sup> 京都大学名誉教授 梅田康弘先生（地震学が専門）

<sup>15</sup> かどさか内科クリニック 門阪庄三先生

方々と、PTA、生徒たちが一緒に活動し、住民の方々に喜んでもらい、共にイベントを成功させた時は、ホッとしたと同時に、ちょっとした感動を味わった。チャリティとして何ができたかは兎も角、みんなで何かが出来た、そして、その中に自分がいたというのは、やはり嬉しかった。

e-dream-s 通信読者の方々のところでも、同様のイベントを企画されたかもしれないと思う。復興と一口で言うのは簡単だが、大変なことだ。でも、それを願っている人々は多く、その思いは大きい。日本も捨てたもんじゃないと思う。e-dream-s でも何かしたい。何が出来るのだろう。頑張れ、ジャパン！頑張れ、e-dream-s！

＜編集後記＞e-dream-s が掲げてきた「国際貢献」というミッションが、「教科書支援プロジェクト」という一つの形になろうとしています。より大きな力で支えるために、周囲の人たちにも我々の活動を伝え、輪を広げていきましょう。 (道面和枝)